

第43回 病態生化学セミナー

日時：平成23年3月24日（木曜日）午後6時00分～

場所：医学部 臨床小講堂

演題：精神疾患を分子生物学で考えてみる：統合失調症発症脆弱性因子DISC1
をモデルとして

Thinking of the pathogenesis of schizophrenia from the viewpoint of risk factors such as DISC1

演者：名古屋大学 大学院医学系研究科 神経情報薬理学 教授

貝淵 弘三 先生

統合失調症は思春期以降に発症することが多く、幻覚・妄想などの陽性症状と、意欲低下・感情鈍麻・思考低下などの陰性症状を呈することが知られている。近年、遺伝学的解析から統合失調症は遺伝的要因によって非常に強く影響される疾患であり、患者の死後脳解析から発症脆弱性に中枢神経系の発達障害が関与することが示唆されている。

現在までに Neuregulin1 や Dysbindin などの有力な発症脆弱性因子が同定されており、神経発達との関連が議論されているが、統合失調症の発症メカニズムは未だ不明である。Disrupted-In-Schizophrenia 1(DISC1) はスコットランドの統合失調症多発家系を用いた連鎖解析により同定されてきた脆弱性因子で、有力な統合失調症関連分子であると考えられている。本セミナーでは、現在までに明らかになってきた DISC1 の機能や病態生理との関連について紹介する。【貝淵弘三】

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp